

「競争力のある観光地づくりプラン改定版」(中間案)に係るパブリックコメント
の要旨及びこれに対する府の考え方

項目	意見の要旨	府の考え方
観光推進体制のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ○ 十分な観光スタッフや事業予算のもと、積極的に京都観光を発展させてほしい。 また、宮崎県知事のようにトップが積極的にセールスに走ることも必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域観光振興の現地現場で柔軟かつ機動的に対応できるよう京都府観光連盟の抜本的な強化を図ります。 また、トップセールスについては国内各種イベントへの出席をはじめ、近年では毎年中国での現地プロモーションも行っており、今後も積極的に取り組んでいきます。
地域自らの取組	<ul style="list-style-type: none"> ○ 府の「競争力ある」とはどこを競争相手としているのか。 ○ 地域内の観光障害の克服、いわば自己変革(競争・改革)こそが、魅力ある観光地づくりにとって大切であり、地域再生につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ より地域間競争を意識した形で以前のプラン名称は「競争力のある」と表現していましたが、今回のプランにおいては京都観光が全国のモデルとして世界に発信することを目指しており、「生活共感・感動創造」京都観光戦略プラン」と改称します。 ○ 地域自らが京都観光を担えるよう、観光推進体制の強化をはじめ、地域自らが資源をもう一度見直し、一つひとつを改めて磨き上げるよう、地域観光や観光産業の担い手となる人材の育成を図る場の設置を目指します。
広域観光の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 京都市域への入り込み客を周辺で回遊させる仕組がほしい。全体として、小さなメニューを数多く出すということが必要になるので、学生や高齢者など知恵のある人のアイデアを積極的に採用してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域ごとに広域観光を推進する組織の設置や府域でのこれらの組織のネットワーク化を図ります。 ○ 京都府観光連盟において、幅広く産学公による広域観光の専門チームを設置し、地域の取組を生かした情報発信等を行います。
国際観光の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各市町村が姉妹都市提携をしている外国諸都市からの観光客誘致を京都府としても支援する制度を新設することにより、市町村自身による外客誘致体制整備の誘い水にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 京都府観光連盟に外国人観光客を誘致するための専門チームを設置し、地域自らが地域のニーズに対応した外客誘致を推進できるよう、ご意見を参考に市町村と相談しながら、外国人誘客のための取組を進めます。

項目	意見の要旨	府の考え方
情報発信	<p>○ 海外でのPRについて、海外在住の京都府関係者に委託して、定期的に京都府の情報を発信してもらい、あるいは海外の観光動向を提供してほしい。</p> <p>○ 観光情報システムについて、自治体や企業による情報発信の仕組みだけでなく、消費者がインターネットなどでコンテンツを作成・発信するメディアに対しても情報を発信する仕組みが望ましい。</p> <p>情報発信者は供給されたコンテンツを利用しつつ、情報を付加することで独自のコンテンツを発信することが可能となる。この生まれたコンテンツをオール京都体制で吸い上げ、流通させることができれば、京都に関するコンテンツのサイクルが完成するのではないかと。</p>	<p>○ 京都府も参画する独立行政法人国際観光振興機構（JNTO）や関西広域機構（KU）が海外事務所等を設置し、情報発信や収集・分析を行っています。</p> <p>府単独の取組としては、NPO法人米国京都会と経済や観光など相互交流に関する覚書を今年8月20日に締結したところであり、ご意見を参考に海外でのPRのあり方について検討していきます。</p> <p>○ 現在、統一的な基準による観光情報の収集・登録を目指し、独立行政法人情報通信研究機構（NICT）と共同で観光情報データベースの標準モデルの構築に取り組んでいます。</p> <p>コンテンツの二次使用については、著作権の管理等の問題がありますので、十分な研究・検討が必要となります。</p>
人材育成	<p>○ 京都観光人材育成会議について、仮称といっても、もっと京都観光の輝かしい将来をイメージできるような名称にできないか。</p>	<p>○ 仮称を「京都観光未来塾」に変更します。</p>